

# アップサイクル術の検討 -廃棄衣料を用いた制作-

A21AB066 齋藤 菜々子

## 1. はじめに

現在、日本ではファストファッションの流行により、衣服を簡単に低価格で手に入れることができるようになってきている。2022年度の環境省が実施した日本の衣服消費・利用状況に関する調査によると、年間一人当たり衣服を18枚購入し、15枚手放し、35枚着用していないということが調査結果<sup>1)</sup>で示されている。

一方、アップサイクルとは、元のものよりも価値の高いものに生まれ変わらせる新しいリサイクルの形<sup>2)</sup>である。自身でアップサイクルを行うことで、自分だけのオリジナル作品を作り愛着を持つことで、衣服の長寿命化を実現することができる。その他にも衣服の制作方法を学ぶ機会やサステナブルファッションへの興味・関心へ繋がると考える。

そこで、本研究ではアパレル制作技術を修得する学科で学ぶ者としてアップサイクル術の検討を行うこととした。着用されなくなった衣料品を取り上げ、新たな衣服を制作し、用途を広げようとするものである。なお本研究が、今後のリサイクルへの興味関心、アップサイクル術の提供、環境負荷への改善として貢献できるものとする。

## 2. アップサイクル術について

アップサイクル術について文献調査を行ったところ次の手法が示された。

### 2-1 カラーリサイクルシステム

株式会社colorloopが開発した繊維を色で分け循環させる手法である。衣類は混紡・混織されたものが多く、素材で分別することが難しい。そこでカラーリサイクルシステムを導入することで、破れたり褪せたりした廃棄繊維も有効利用<sup>3)</sup>できる。また廃棄繊維そのものを色材として再利用するため、より環境への負荷を低減すること<sup>3)</sup>が可能である。

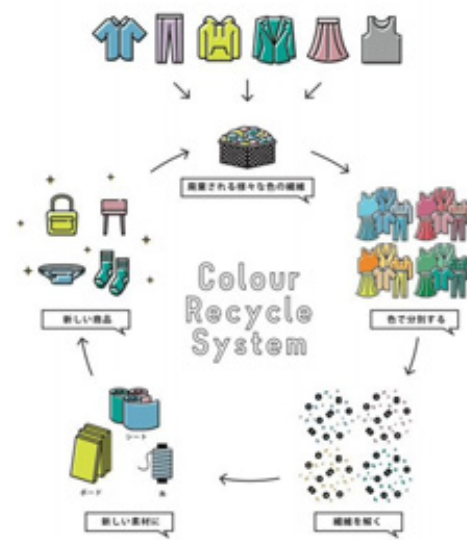


図1 カラーリサイクルシステム

[https://www.kansai.meti.go.jp/2kokusai/SDGS/case\\_sb/case\\_02.html](https://www.kansai.meti.go.jp/2kokusai/SDGS/case_sb/case_02.html)

### 2-2 ドロースtring

衣服に紐を通し、紐を引っ張って絞るデザインのことである。引き紐で丈の長さなどのサイズ調整をしたりデザインを変えたりすることができる。



図2 ドロースtring

### 2-3 染色・脱色

染色・脱色は古着に色を付いたり抜いたりした後染めの手法である。大切にしていたのにシミがついてしまったり、形が好きだけれど色が着にくくなったりした服を染料・ブリーチ剤を使い、色やデザインを変化させるアップサイクルである。

### 2-4 パッチワーク

布切れをはぎ合わせて1つの布を作る手芸技法である。布製品を作る過程において出た布切れや廃棄衣料の使用できる部分を再活用して、もう一度布にすることで廃棄される布地を減らすことができる。



図3 パッチワーク

### 2-5 裂き編み

廃棄される衣料や布製品を裂いて長い紐にし、毛糸のように編む手法である。布を細長く裂くため、シミや汚れが気になりにくくなったり汚れの部分を取り除いたりすることができる。また使う布地の種類を変えることによって風合いの変化を楽しむこともできる。



図4 裂き編み

<https://mainichigahakken.net/hobby/article/post-2195.php>

### 2-6 アププリケ

アププリケは切り抜いた布を地の布に縫い付ける手法である。衣服が破れてしまったり、変色してしまったりした箇所につけることで衣服を使い続けることができる。

### 2-7 布くずを詰める手法

色で分けた布くずを縫い合わせた布の間に詰めて模様を出す手法である。チュールのような透け感のある布地に詰めることで、布地本来の色味を生かしながら模様を出すことができる。また、ぬいぐるみやマスコットを作る際に綿の代わりに詰める方法もある。



図5 布くずを詰める手法

### 2-8 コラージュ

様々な端切れを1枚の布に重ねて縫う手法である。これにより小さな端切れももう一度布として活用することができる。また端切れを重ねるため、1枚の布地よりも丈夫な布地にすることができる。

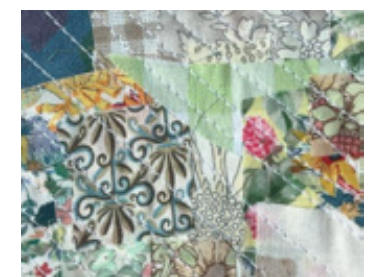


図6 コラージュ

## 3. 作品制作

### 3-1 デザイン

文献調査で示されたアップサイクルの手法を取り入れ、パーカーとワンピースをデザインした。

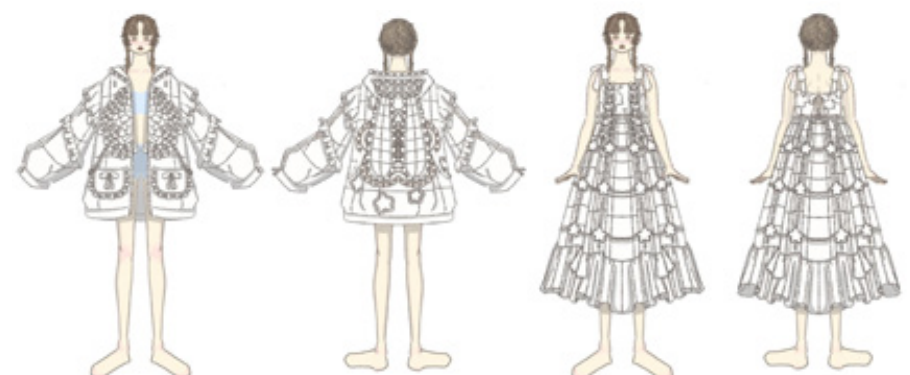


図7 パーカーのデザイン

図8 ワンピースのデザイン

### 3-2 制作過程

パターンはパーカーは立体裁断法、ワンピースは平面裁断法で作成した。

まずカラーリサイクルシステムを行い、寒色が多かったため青系、緑系、茶、白、黒の廃棄衣料を使用することにした。

#### 3-2-1 パーカーの制作過程

まず主な布地をパッチワークで制作した。14×14cmの正方形を162枚切り出し、縫い合わせてパッチワーク布地を作った。作った布地を図9に示す。黒色のチュールでフリルを作り、袖とフードに付けパーカー本体を制作した。



図9 パーカーのパッチワーク布地

前はボタンで閉められるようにし、前身頃にはポケット、星のカラージュしたものを付けた(図10)。肩付近にはカフスだったものを付けループにした(図11)。後身頃には裂き編みで作った星のモチーフを立体に付け、ポケットのようにものを入れることができるようにした(図12)。袖には2本のドロースtringを付け、最後に全体に星のアップリケを付けた。



図10 星のカラージュ

図11 ループ

図12 星のモチーフ

#### 3-2-2 ワンピースの制作過程

スカート部分に使用する主な布地をパッチワークで制作した。10×10cmの正方形を廃棄衣料から297枚切り出し配置し、縫い合わせた。作ったパッチワーク布地を図13に示す。

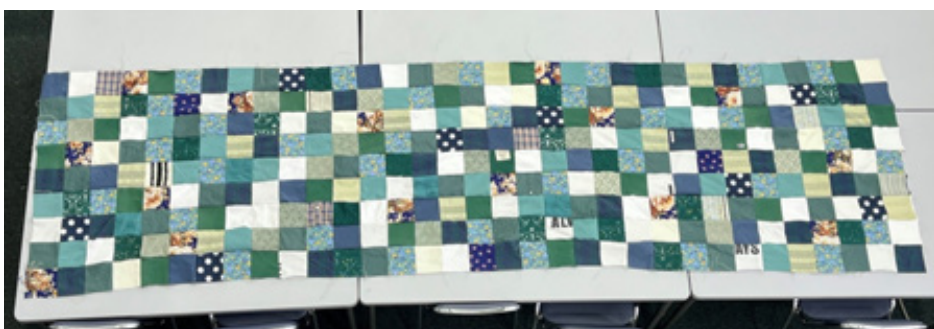


図13 ワンピースのパッチワーク布地

上見頃の布地は染色・脱色を行った。染料には市販のダイロンを、脱色にはハイターを使用し、両方ともタイダイ染めの技法を用いて行った。染色前の布地を図14、染色後の布地を図15、脱色前の布地を図16、脱色後の布地を図17に示す。

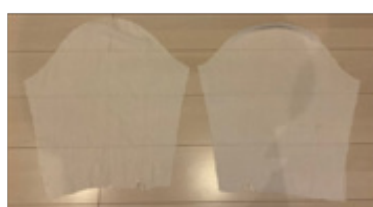


図14 染色前の布地



図15 染色後の布地



図14 染色前の布地



図15 染色後の布地



図16 脱色前の布地

図17 脱色後の布地

## 4. 完成作品

完成作品を図18に示す。またワンピースとビスチェのみを図19に示す。



図18 完成作品

図19 ワンピースとビスチェのみ

使われていないスニーカーがあったため、染色をしてボタンやフリルの装飾を施した(図20)。

それに加え、本制作にて余った布地があったため裂き編みで星形のバッグを制作した(図21)。また余った端切れを使用しうさぎのぬいぐるみ(図22)と星のマスコット(図23)を制作し、パーカーの飾りとした。



図20 スニーカー

図21 バッグ

図22 ぬいぐるみ

図23 マスコット

## 5. おわりに

本研究ではアップサイクル術の調査をもとに収集した廃棄衣料を取り上げてパーカーとワンピース、小物の制作を行った。

作品制作においては、カフスやボタン、商品タグを部品や装飾として使用したこと、様々なアップサイクルの手法を用いてオリジナルのものを作ることができたことから廃棄衣料から行う衣服制作の楽しさを感じた。

本作品を見て、多くの人々がサステナブルファッションに興味・関心を持ち、アップサイクルに取り組むきっかけになれば良いと考える。そして、環境負荷への改善に貢献できれば幸いである。

## 6. 参考文献

- 1) 環境省：サステナブルファッション  
[https://www.env.go.jp/policy/sustainable\\_fashion/](https://www.env.go.jp/policy/sustainable_fashion/)
- 2) プラスチックスマート：プラスチックスマート Plastics Smart - 環境省  
[https://plastics-smart.env.go.jp/plasmaction\\_detail\\_alliance?view=1](https://plastics-smart.env.go.jp/plasmaction_detail_alliance?view=1)
- 3) colorloop：カラーループ  
<https://colourloop-jp.com/>